



デルは私)、下は附属中三年時のもので、胸のマークはFUZ OKU(モデルは私と福田君)。といつても当時、ユニフォーム、ストッキング、スパイク、グローブは全て自前。帽章の「F」と胸のマークのみ学校貸与品。

スタートは附属小六年の春(昭和二十一年)、当時の山本英男先生の「どうだ野球をやりたい人はいるか?」に皆で「ハイ」。勿論私もその一人。「よし、野球

チームを作るぞ」で決まり。先生のご指導で少しずつ野球らしくなり、鎌附遠征も。そのまま進んで附中野球部となる。とはいえ、無い無いづくしの時代。ボールも七〜八個しかなく、打撃練習でのファウルは全て脇のフェンスを越えてガケ下へ。ボールが無くなると練習中止。全員が探してボールが集まると練習再開。

私の場合もグローブを買ってもらえず、練習前日、隣の家のお兄さんに「また明日グローブを貸して下さい」。スパイクも無く最初は運動靴。二塁打を打つても少しでもベースを回ると、もう止まらず戻れず立ち往生でアウト。

今の附中野球部の輝かしい伝統は、この立野の丘のグラウンドから始まったことを野球部後輩達は憶えておいてほしい。



横浜国立大学学生歌

作詞 鶴若英子 (学・英語 昭和34卒)  
作曲 大根田 遼 (工・機械 昭和37卒)

moderato

1. み は り か す あ お う な ー ば ら に、 の び  
2. ア タ ラ ー シ ー イ ヨ ヲ ツ ク ル モ ノ、 ヒ カ

ゆ き て つ き せ ぬ も の は わ れ ら が お も い、 み ど  
リ ア リ ノ ソ ミ フ ム ネ ニ、 ワ レ ラ ノ ミ チ ヲ ク イ

り こ き お か に の ほ り て、 と も に か た ら ん、 と も  
ノ ナ キ ソ ノ ニ チ ニ チ ヲ、 ト モ ニ ス マ、 ト モ

に ま な ば ん、 わ が ー と も よ  
ニ マ ナ バ ン、 ワ ガ ー ト モ ヨ

- 見遙かす青海原に  
伸び行きて尽きせぬものは  
われらが思い  
緑濃き丘に登りて  
共に語らん、共に学ばん  
わが友よ
- 新しい世を創る者  
光あり望みを胸に  
われらの道を  
悔いのなきその日々を  
共に進まん、共に学ばん  
わが友よ